

Epicedio Eroico

Carlo Otello Ratta

英雄葬送曲

カルロ・オテロ・ラッタ作曲

第二次世界大戦の最中、イタリアのシェナで 1940、41 年に亘りマンドリンオーケストラのためのオリジナル作品作曲コンクールが行われたも当時は 1922 年以来独裁政治を続けてきたファシストの最強となった頃で、主催もファシストの一国家機関 O・N・D の名のもとに行われた。

二回とも大きな成果を挙げて多くの優れた作品が入選したが、枢側の敗戦によってイタリアの音楽界も大打撃を受けて復興するに至らず、あたら名曲も出版されることなく眠ったままになっていた。

1974 年春渡伊した、同志社大学 OB 指揮者岡村君はこれ等の名曲を保持するシェナのアルベルト・ホノチ氏と親しくなり懇願してこれ等のコピーを譲り受けることが出来た。

本曲「英雄葬送曲」も第二回コンクール(1941 年度)に二等受賞した作品である。

この作者は第一回コンクールにも「東洋舞曲チュニジアのイタリア人」(In Tunisia Italiana, Danza Orientale)が二等に入賞している。

本曲は第二次世界大戦中、枢軸側の重要な根拠地であったリビアのトブルク陥落に寄せた迫力ある悲壮な挽歌である。

トブルクは第二次世界大戦の枢軸側(独伊)と連合軍(英米仏)との間に再三激しい攻防の繰り返された所で、両陣営の勝利を決する山場であったので、トブルクの陥落によって戦況の大勢は連合軍側に傾いていった。

作者はイタリア フェールーラの作曲家で 1888 年 9 月 24 日生、1945 年 10 月 30 日没

(解説/中野二郎)

追加資料

遺稿

中野二郎編著

「マンドリン ロマンの薫り 2 集」より

